

発電所敷地内を避難所に

モリシヨウ 日田市、自治会と協定

豪雨 ひとまち

を求める住民の声を聞き、地域貢献の一環として応じた。地区内に4カ所ある自主避難所のうち1カ所の公民館は老朽化しているという。

日田市天瀬町五馬市で木質バイオマス発電を行う「モリシヨウ」グループの2社が、自然災害時に近隣住民の自主避難所として、

発電所敷地内の事務棟など2棟や駐車場の開放を決めた。最大約40人が受け入れ可能で、電源も提供する。

市によると、民間企業の自主避難所提供は初めて。2社はグリーン発電大分と日本フォレスト。地元の五馬市西自治会と地域の祭りなどを通じて交流があり、避難所として施設利用



市役所で2月26日、2社と市、自治会による協定書調印式が行われた。写真。自治会の松本隆義会長は「遠くへの避難が難しい高齢者が多く、近くに避難所ができて安心感が広がっている」と感謝。2社の森山和浩代表取締役は「災害はなにかが正しいが、事前準備は大事。住民を受け入れるための社員教育を進めたい」と話した。(吉田賢治)

2021年3月13日 (土)
西日本新聞 20面
(日田・玖珠)